

超促進型メタルハライドランプ式耐候性試験

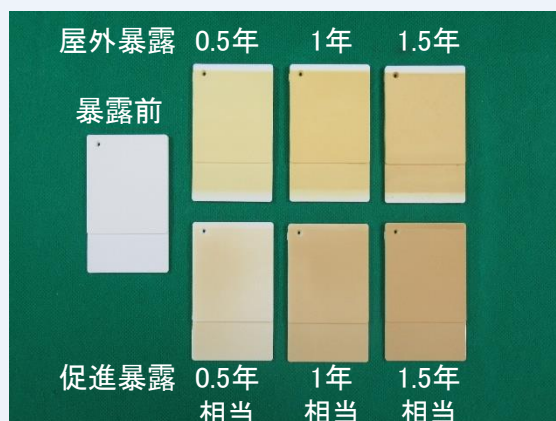
超促進型メタルハライドランプ式耐候性試験機の光源は、紫外線を集光することで促進性を高めており、紫外線量は太陽光の20～30倍、紫外線の放射露光量換算での促進倍率は100倍にもなります。評価に要する時間が大幅に短縮されるため、特に材料選定や研究開発におけるスクリーニング試験で用いられます。

多くの耐候性試験機とは異なり、試料を試験機内に静置(平置き)し、上部から光を照射します。放射照度、ブラックパネル温度、湿度、シャワー条件を設定します。照射、結露、休止の3つのモードがあり、それぞれを組み合わせることも可能です。暴露後は、外観観察、色差測定、強度測定、表面分析等の評価を行います。

試験機名称	岩崎電気(株)製 アイスーパーUVテスター SUV-W161-T05		
条件	有効照射面積	約80,000 mm ² (422 mm × 190 mm)	
	放射照度	75 mW/cm ² ～150 mW/cm ² (300 nm～400 nm)	
	ブラックパネル温度	50℃～85℃ (照射時) 35℃～75℃ (休止時)	
	湿度	40 %RH～70 %RH (照射時) 50 %RH～90 %RH (休止時)	
試験モード	1. 連続光照射 2. 光照射 → 休止サイクル 3. 光照射 → 結露サイクル 4. 光照射 → 結露 → 休止サイクル 5. 光照射 → 休止 → 結露サイクル		
試験規格	JIS A 1501		



試験機外観



屋外暴露との比較 (ABS樹脂)

試料台の上下移動範囲を60 mmに改良し、高さのある試料にも対応しています。
ケーブル孔を設けているため、試料表面温度のモニタリングも可能です。